

MRI 検査の説明と同意書(院外用)

MRI(磁気共鳴画像)検査は X 線を使うことなく磁気を利用して、身体の内部状態を描出する検査であり、患者さんの体内金属の種類によって発熱等の可能性ならびに画像が不十分になる可能性があります。

また、検査の目的によっては造影剤を使用することもあります。

検査は狭いトンネルの中で行いますので、閉所恐怖症の方は検査を継続することができない場合があります。

本院では、患者さんに安心して MRI 検査を受けていただくために、担当医から十分な説明を行い、患者さんの自由意志による同意を得たうえで検査を行いたいと考えております。

担当医の説明をお聞きいただき、MRI 検査の実施に納得、同意されるときはご署名のうえ提出をお願いします。

【説明内容の概略】

○検査について

1. 検査時間は準備を含めて 30 分～1 時間です。
2. 心臓ペースメーカー等を使用している方は検査できないことがあります。
3. 体内の動脈クリップ・コイル・ステント・人工関節などの金属は発熱の可能性がありま。
4. 身に付けておられるもので検査に差し支えがあるものは可能な限りはずしていただきます。
5. 乳幼児・小児・閉所恐怖症の方等、検査中の姿勢保持が困難な場合、睡眠剤を処方されることがあります。

○造影剤の使用について

1. 意義

造影剤を静脈内に注入することで鮮明な画像が得られ、全身の腫瘍性病変及び血管性病変の描出が向上しますので、精度の高い診断ができます。

2. 副作用について

MRI 検査に使用するガドリニウム造影剤は、多くの場合人体に無害です。

しかし、ごくまれに副作用の見られることがあります。その大まかな頻度は次のとおりです。

MRI 造影剤の副作用出現頻度

- ・ 軽症:100 人に 1 人以下(不定愁訴・頭痛・嘔吐・紅潮・喉頭浮腫・血管浮腫・発疹など)
- ・ 重症:10 万人に 1 人以下(呼吸困難・肺水腫・アナフィラキシーショック・視覚障害など)
- ・ 死亡:極めてまれ(造影剤の影響が考えられるものは 200 万人に 1 人程度)

3. 既往がある方について

次の既往がある方については、副作用を生じる可能性がやや高くなりますので、担当医にお申し出のうえ、相談してください。

- ・ご本人又は血縁者に喘息やアレルギー体質の人がいる
- ・以前、造影剤使用で気分が悪くなったことがある
- ・重い腎臓の病気がある

4. 万が一、副作用が起こった場合には迅速かつ最善の処置を行います。安心して検査をお受け下さい。

MR I 検査同意書（院外用）

宮崎市郡医師会病院長 殿

私は今回の MRI 検査における体内金属等の有無の問診ならびに造影剤の使用について、今回の検査の必要性、副作用及び合併症に関し、担当医師から説明を受け、納得しましたので検査の実施ならびに造影剤の使用に同意します。なお、検査の実施可否および造影剤使用の最終決定は検査担当医に委ねます。

また、上記の検査中予期しない緊急状況が発生した場合には、医師が必要と判断した処置を行うことにも同意します。

令和 年 月 日

患者氏名 (署名)

代理人氏名 (署名)

(続柄)

代理署名の方はこちらにご記入ください

体内金属等の問診ならびに検査の目的と造影剤使用の意義等について説明しました。

なお、患者さんで ①本人または血縁者に喘息やアレルギー体質の人がいる ②以前、造影剤使用で気分が悪くなったことがある ③重い腎臓の病気がある又はアレルギーの既往がある ④その他の危険因子がある場合には、副作用が出現する確率が高くなることも併せて説明しました。

令和 年 月 日

医療機関名 : _____

説明した医師名 : _____